

**平成 27 年度
公益財団法人丹後地域地場産業振興センター事業報告**

総括的概要

平成 27 年度は国内において景気の好循環に陰りが見えたことで、消費税率 10% への引き上げは平成 27 年 10 月から平成 29 年 4 月に延期され、景気回復によるデフレ脱却を最優先とした政策に転換されたことにより、消費の下支えに一定の効果がありましたが、円安、原油安など経営を大きく左右する経済環境の変化が進み、企業においては先行きを予測することが困難なほど不透明感に包まれています。

このような国内情勢の中ではありますが、丹後地域にとっては長年の悲願であった京都の南北をつなぐ京都縦貫自動車道がようやく全線開通し、明るい話題に包まれるとともに、人・ものの好循環が期待されるところです。地方にとっては、人口の減少に伴い、職場の確保、担い手や労働者の確保が厳しい状況となっており、地方創生が一時の猶予も無い状況となっています。

当センターにおいても近隣住民の減少による来館者の減少が続いており、老朽化する施設と合わせ大きな課題をなお抱えています。

平成 27 年度はこのような問題を抱えつつ、製造、生産に力を注いでいる企業や個人と綿密に連携しながら事業に取り組んで参りました。

以下、本年度の事業内容を報告します。

I 新商品・新技術開発事業（公益目的事業 1）

1 地域ものづくり支援事業

丹後・食の王国ビジネス連携推進会議（事務局当団）において複数社連携新商品開発事業を実施し、商品開発及び販路開拓支援事業を実施しました。

開発商品

①こっぺちゃんの玉手箱

地元産の松葉ガニの雌（コッペ）を鍋用に加工した商品開発。流通は急速冷凍装置を使用し、鮮度が高い状態での搬送を可能としている。

②まいこ金時のテリーヌ

品種改良され「まいこ金時」と命名された地元産のサツマイモを洋菓子として商品開発。商談会等により販売先を開拓中。

③丹後七姫七味

地元農家とハーブ園、漁協が連携し丹後産の唐辛子、青のりを使用した七味唐辛子を開発。

④ 北京都 十二蔵の地酒飴

平成26年に海の京都で試作がされた地酒飴を元に、京都府内の業者により丹後の地酒飴の商品化を目指した。

丹後地酒及び丹後（海の京都参加12酒蔵）のPR商品として12蔵のそれぞれのお酒（一部は酒粕含む）を入れた飴を一度に楽しむことができる商品。

2 創業支援事業

京丹後市新シルク産業創造事業補助金を活用し、桑栽培、養蚕を新たに実施しようとするシルク関連製品・商品の製造・販売事業者等の支援を実施しました。

① 養蚕業創業等支援 1社

② 桑栽培業創業支援 1社

3 高機能急速冷凍装置導入による新サービス開発事業

丹後地域の多彩で高品質な農林水産物や加工食品等地場産品の高付加価値と販路拡大を目指し、食品加工業者、飲食・宿泊業、小売業などがそれぞれの分野において「食」に関する新たな戦略の構築を支援するため、京丹後市の補助を得て、高機能急速冷凍装置を導入しました。

Ⅱ 人材育成事業（公益目的事業1）

伝統産業である織物業や基幹産業である機械金属製造業をはじめ、地域事業所・商店街等の維持・再生・発展を図るとともに、地域の特性を活かした未来指向型の産業・ワークスタイルを創造し、新たな産業・事業所の創出を図り、雇用・就業の機会を促進するため下記の人材育成事業を実施しました。

1 ICT利活用地域人づくり事業

京丹後市地域産業人材育成委託事業をうけ、創業・起業及び技能の習得により就業を目指す方々を対象として、ECサイト構築講習を実施しました。

○ 講座名 「成功のノウハウを学ぶ」就労・創業セミナー

① ネットショップを運営している講師が教えるECサイト構築・運営講座

夜間コース 10月19日（月）から12月7日（月）の毎月曜日19：00～21：30 8回開催

昼間コース 10月20日（火）から12月8日（火）の毎火曜日14：00から16：30 8回開催

受講者 全14名

②YahooJapan講師が教えるインターネットで販路拡大ECサイト
実例紹介

12月15日（火）19：00から21：30

受講者 16名

2 蚕糸業人材育成派遣事業

新シルク技術を活用した産業創出を担う人材の育成を目的に、蚕種・養蚕業人材の育成、活用を図ることを目的として、京丹後市新シルク産業創造事業補助金を受け実施しました。

京都工芸繊維大学における「蚕種・養蚕人材育成事業」の研修カリキュラムを受講させ、蚕種・養蚕に必要な技能及び知識を身につけました。

研修期間 平成27年9月14日から11月27日

研修受講者 2名

3 地場産業の体験講座開催

研究開発棟を活用し、染色技術の習得による製品化を念頭に網野染色研究会茜の会員を対象とし、年間を通じて染色技術の指導を実施しました。

また、スキルを身につけた会員による観光客等を対象とした染色体験を随時実施し465名を受け入れしました。

地域の地場産業である着物の着用機会の増進を目指し、一人でも着用できる着物着付教室を京丹後市職業訓練校と共催で実施し13名の指導を行いました。

Ⅲ 需要開拓事業（公益目的事業1）

1 丹後ブランド商品認定事業

（1）Tango Good Goods 認定事業

事業開始以来17年目を迎えるTango Good Goods 認定事業を実施し、製造者の「ものづくり」を奨励・支援し、販路開拓の意欲高揚を図るとともに、丹後ブランド商品のコンセプト確立とそれに基づくブランドイメージの定着化を図り、流通及び需要の拡大・開拓を推進しました。毎年改正される商品表示法については最新の状況を審査基準として採用し、認定品としてのコンプライアンスの指導を行い、アレルギー表示の他、着色

料・保存料等の表記についても製造者の意識を高め、T a n g o G o o d G o o d sとしての質的向上を図りました。また、認定品へのT a n g o G o o d G o o d sロゴシール貼付指導を推進し、地域ブランド商品としての差別化を図りました。

ア 認定状況

(ア) 申請状況

申請者数40業者、申請商品数100点

(イ) 認定状況

認定者数40業者 認定点数98点

通算（平成25年度～27年度）認定者数90業者、認定点数277点

(ウ) 優秀産品表彰

優秀産品表彰制度は、認定品の中で特に優秀と認められるものを選定・表彰する制度で、本年度は5点が表彰されました。また、優秀産品を示すロゴシールの作成、配布を実施しました。

イ T a n g o G o o d G o o d s 認定推進委員会開催

認定事業実施においては、認定推進委員会委員10名に就任いただき認定について協議いただきました。

(ア) 第1回T a n g o G o o d G o o d s 認定推進委員会
平成27年4月24日 午後2時開催

(イ) 第2回T a n g o G o o d G o o d s 認定推進委員会
平成27年7月8日 午前10時30分開催

(ウ) 平成27年度T a n g o G o o d G o o d s 審査会
審査員として専門家（デザイナー、食品アドバイザー、マーケティングアドバイザー）3名を委嘱し、審査会を開催しました。

審査会日時 平成27年7月6日・7日

審査終了後に全体講評及び商品個別相談を実施

ウ T a n g o G o o d G o o d s 認定品カタログの作成（B toB用）及びバイヤーへの配布

平成27年度認定品を掲載したカタログを作成し、見本市等でバイヤーへ配布しました。作成部数1,000部

(2) 第17回T a n g o G o o d G o o d s 見本市の開催

第17回目となる丹後ブランド産品見本市を京都丹後ブランド産品会との共催により、当センターにおいて開催し、丹後ブランド認定商品を中心とした地場産品の地域内PR及び流通促進を図りました。

2 京都丹後ブランド産品会の支援及び地域特産品販路開拓事業

T a n g o G o o d G o o d s 認定事業者のうち地域外へも、その販路を開拓する意欲のある事業者で発足した「京都丹後ブランド産品会」の活動を支援し、新商品開発及び商品改良指導、販路開拓等の事業を実施しました。

(1) 主な事業

ア 都市部での丹後のええもんうまいもん展の開催

イ 展示即売会等の開催情報の提供

ウ 中元カタログ及び歳暮カタログの作成配布

エ ECサイトの運営

URL <http://tango.jibasan-shop.jp/>

4 ICT人材育成・活用による丹後産品集積活性化事業

平成22年度に整備した集出荷システムを活用し、食のみやこ丹後王国（愛菜館）を丹後産品の集積及び販売・流通拠点として支援を実施するとともに、各市町に配置しているデジタルサイネージで丹後の魅力を発信しました。

5 展示ギャラリー活用事業

地域でものづくりに励む、企業、団体、個人等の作品発表の場として、1階展示ギャラリーを提供するとともに、センター及びセンター出展者会による情報発信の場として活用しました。

6 丹後・食の王国ビジネス連携推進会議

丹後地域の農産物や加工品の市場評価を高めるとともに、新たな商品の開発や販路の拡大を関係者との連携により推進するため設置された丹後・食の王国ビジネス連携推進会議の運營業務を受託し、丹後のたからもの展等の事業を実施しました。

7 京丹後ブランド発信・PR事業

京丹後市産品の販路開拓・販売促進による産品生産量の拡大と就業機会の開発を図り、地域産業の活性化に資することを目的に、京丹後市から京丹後ブランド発信・PR事業を受託し、実施しました。

IV 情報収集・提供事業（公益目的事業1）

1 展示即売室即売動向情報収集分析提供事業

展示即売室における日々の顧客、商品、販売情報の収集に取り組み、販売データを分析、加工し新商品の開発、改良の基礎資料としてもらうため出展者へ毎月アミティ情報を発行しました。

消費者の購買動向、生の声を伝えることにより出展者の経営基盤強化及びセンターとの意思疎通を図ることができました。

2 センターホームページによる地域資源発信事業

地域生産者、消費者が手軽に利用できるタイムリーな情報を提供することを心がけ地域情報、センター情報、産品情報、広報等をセンターのホームページとして発信するとともに、消費者が直接丹後産品を購入できるECサイトを運営しました。

また、アミティ丹後及びホッと丹後のブログを引き続き運営し、身近な情報を提供することで、地域及びショップへの誘客を図りました。

V 地場産品展示普及支援事業（公益目的事業1）

1 地場産品常設展示

当センターの重要な機能及び事業の柱の一つである地場産品のPRを目的とする常設展示即売事業は、地域産品の総合展示場として「丹後ちりめん」をはじめ197業者の地場産品約2597品目に及ぶ製品を展示しており、来館者の注目も高く、観光関連業者からのご案内も数多くいただいています。

地域の観光資源としての機能強化を図るとともに、丹後を訪れる観光客をはじめ地域内外へも取扱品情報を発信するなど幅広く宣伝・啓発し、販路開拓とともに消費者ニーズの把握による需要拡大に努めました。

店舗における購買動向を分析することで、出展者の商品開発、改良に寄与するほか、センター事業の企画立案の基礎となっています。

また、店舗における商品の見せ方を工夫することで、商品の特徴、魅力をアピールするVMDに努め、出展者の商品の魅力発信力を強化するとともにバイヤーへのVMDを含めた商品提案を行いました。

2 丹後産品情報発信事業

消費者向けカタログ（中元・歳暮の2種）の作成配布、ECサイトの運営を行い、丹後産品を全国に向け広く周知しました。

Ⅵ 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業（公益目的事業1）

1 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業

大都市圏での丹後情報の発信、地場産品PRを推進することを目的とし、宮津市、京丹後市、与謝野町との連携により各市町の特産品及び地域PR、サテライト販売、生産者直売など多角的に展開し、都市部でのデータを収集するチャレンジショップ及びアンテナショップとして活用・展開しました。

Ⅶ 会館提供・コミュニティー事業（収益事業1）

1 会場提供事業

センター2階施設を地域住民、企業、団体等の会議、研修会、展示会等に貸し出すとともに地域コミュニティーの場として地域活性化の一助としました。

2 ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業

総務省からの委託を受け、当センター情報センターをテレワークオフィスとして整備し、京丹後市及び明治大学、株式会社アーティフィス、株式会社ブリリアントサービスとコンソーシアム協定を締結し、都市部企業4社を受け入れ実証事業を実施しました。

Ⅷ 誘客販売事業（収益事業2）

1 販売事業

来館者等の利便に資するため土産品としてキーホルダー等の販売を行いました

2 たんご朝市の開催

たんご朝市は、開設15年を迎え、地域住民・観光客等から好評を得ており朝市出展者会の協力の下、本年度も引き続き朝市を毎日曜日開催しました。

（1）たんご朝市春の感謝祭 5月10日開催

- アミティ丹後出展者会との共催
 (2) たんご朝市秋の感謝祭 11月22日開催
 アミティ丹後出展者会との共催

Ⅸ 管理事業

1 理事会の開催

開催日	主な審議内容
平成27年6月8日	○平成26年度事業報告・収支決算について ○第5回評議員会の開催について
平成27年9月16日	○平成27年度正味財産増減予算補正他(みなし決議)
平成28年3月8日	○評議員会の開催について(みなし決議)
平成28年3月28日	○平成28年度事業計画について ○平成28年度正味財産増減予算書について

2 評議員会の開催

開催日	主な審議内容
平成27年6月17日	○平成26年度貸借対照表、損益計算書について ○理事及び監事の選任について
平成28年3月30日	○評議員の選任について

3 監査会

開催日	内容
平成27年5月29日	○平成26年度事業・決算監査